

# 第18回 東西四大学OB合唱連盟演奏会

早稲田大学／関西学院大学／慶應義塾大学／同志社大学



主催／東西四大学OB合唱連盟

2011年8月7日(日)  
ザ・シンフォニーホール





## 早稲田大学校歌

都の西北 早稲田の森に  
 聳ゆる薨は われらが母校  
 われらが日ごろの 抱負を知るや  
 進取の精神 学の独立  
 現世を忘れぬ 久遠の理想  
 かがやくわれらが 行手を見よや  
 わせだ わせだ わせだ わせだ  
 わせだ わせだ わせだ

あれ見よかしこの 常磐の森は  
 心のふるさと われらが母校  
 集り散じて 人は変れど  
 仰ぐは同じき 理想の光  
 いざ声そろへて 空もとどろに  
 われらが母校の 名をばたへん  
 わせだ わせだ わせだ わせだ  
 わせだ わせだ わせだ



## Old Kwansei

Tune ev'ry heart and ev'ry voice,  
 Throw ev'ry care away;  
 Let all with one accord rejoice,  
 In praise of Old Kwansei;  
 In praise of Kwansei Gakuin,  
 In praise of Old Kwansei,  
 Her sons will give, while they shall live,  
 Banzai, Banzai, Kwansei!

No flow'ry chaplet would we twine,  
 To wither and decay;  
 The gems that sparkle in her crown,  
 Shall never pass away.  
 Shall never pass away Kwansei,  
 Shall never pass away,  
 Her sons will give, while they shall live,  
 Banzai, Banzai, Kwansei!



## 慶應義塾校歌

見よ  
 風に鳴るわが旗を  
 新潮寄するあかつきの  
 嵐の中にはためきて  
 文化の護りたからかに  
 貫き樹てし誇りあり  
 樹てんかな この旗を  
 強く雄々しく樹てんかな  
 あゝわが義塾  
 慶應 慶應 慶應

起て  
 日はめぐる丘の上  
 春秋ふかめ揺るぎなき  
 学びの城を承け嗣ぎて  
 執る筆かざすわが額の  
 徽章の誉世に布かん  
 生きんかな この丘に  
 高く新たに生きんかな  
 あゝわが義塾  
 慶應 慶應 慶應



## Doshisha College Song

One purpose, Doshisha, thy name  
 Doth signify one lofty aim;  
 To train thy sons in heart and hand  
 To live for God and Native Land.  
 Dear Alma Mater, sons of thine  
 Shall be as branches to the vine;  
 Tho' through the world we wander far and wide,  
 Still in our hearts thy precepts shall abide!

Still broader than our land of birth,  
 We've learned the oneness of our Earth;  
 Still higher than self-love we find  
 The love and service of mankind.  
 Dear Alma Mater, sons of thine  
 Would strive to live the life divine;  
 That we may with increasing years have stood  
 For God, for Doshisha, and Brotherhood!

## ご挨拶

本日は第18回東西四大学OB合唱連盟演奏会にご来場賜り、誠にありがとうございます。  
 私達は、1977年にその第1回を東京で、その後も2年ごとに東京と関西で交互に演奏会を開催してまいりました。34年を経てもなお、常に変わらぬ情熱を持ち続ける男声合唱の虜となった男達400人が一堂に会し、ハーモニーを作り上げる喜びを共にしておりますのも、一人ひとりがこの“OB四連”を通して、生きる力と仲間の絆に支えられているからであります。

そうした中、演奏会の準備をしていたところ、本年3月、東日本を未曾有の災害が襲いました。災害で失われました尊いお命に安かれと祈り、いまなお多くの苦しみの中に暮らされている皆様には、すみやかな復興と、立ち上がる勇気と力が与えられます様、願わずにはられません。

今回の災害に際し、本演奏会の開催を躊躇した時期もございましたが、私達は歌の力を信じております。癒しと慰め、さらには歩み続ける勇気と力を、歌声を通して届ける事が出来ますようにと、今日もそしてこれからも、そう強く願って止みません。

80歳を超える大先輩から今年卒業まで、まさに老いも若きも、さらにはお越し頂きました皆様と共に、今日のこの時を過ごせる僥倖に感謝し、ご挨拶とさせていただきます。

2011年8月7日  
 東西四大学OB合唱連盟



早稲田大学総長  
**鎌田 薫**

本日多くの方々にお集まりいただき、第18回東西四大学OB合唱連盟演奏会が開催されますことを、早稲田大学を代表して、心からお慶び申し上げます。

早稲田大学は、現在、研究、教育はもとより、それらを通じての社会貢献も視野に入れた不断の改革に取り組んでおりますが、とりわけ本年は、東日本大震災の発生を受けて、その復興支援に力を注いでおります。在学生、教職員のみならず、校友(卒業生等)の奮闘も頼もしく、例えば、早稲田大学グリークラブのOB有志が避難所を訪れ、力強い歌声で被災者の方々に励ました、というニュースは記憶に新しいところです。

伝統と実績のある東西四大学OB合唱団による隔年開催のこの演奏会は、各団がそれぞれの日頃の練習の成果を競いながらも、学生時代から現在に至るまで続く“絆”をさらに太く、強くしていく素晴らしい機会だと思います。今後も息長く、各合唱団ともども発展を重ねていく演奏会となることを祈念しております。

ご来場の皆様には、学生とはまたひと味違う大人のコーラスの響きを、心ゆくまでお楽しみいただければと思います。併せて、本日の演奏会開催のためにご尽力いただきました関係各位に心から感謝いたしまして、ご挨拶いたします。



関西学院大学学長  
**井上 琢智**

「第18回東西四大学OB合唱連盟演奏会」が開催されますことを心からお慶び申し上げます。

音痴を自認していた中学校時代に、コーラス部に強く誘われ入部し、合唱コンクール出場を目指して、日々の練習に明け暮れました。その甲斐もあり、京都府代表として毎日合唱コンクールに出場することもできました。今なおその舞台ははっきりと脳裏に焼き付いています。

この入部を契機に男声合唱の魅力にとりつかれ、慶応のダークダックス、早稲田のボニージャックス、関学のザ・シャデラックスに憧れ、僅かの小遣いを貯めてプレーヤーとレコードを買いました。関西学院大学入学とともに入部を考えたのはグリークラブでした。グリークラブは私にとって羨望のクラブだったからです。実際に入部することはなかったのですが、その後も合唱への憧れは続いていました。

このような私にとって今、日本を代表する私の憧れの東西四大学OB合唱連盟演奏会の挨拶文を書かせていただけることは至上の喜びです。この演奏会は私の青春との二度目の出会いとなることは間違いありません。

本日の東西四大学OB合唱連盟演奏会のご盛會を心よりお祈りいたします。



慶應義塾長  
**清家 篤**

2年に1度、東西で交互に演奏会を開催してきた東西四大学OB合唱連盟演奏会が、今年も開催されます。本演奏会も回を重ね、今回で第18回を数えることとなりましたが、それは本日ご来場された方々をはじめ、多くの人によって支えられてきました。そのことに改めて敬意を表します。

学生時代、合唱に青春を燃焼させてきた四大学の各団員は、卒業してからも多忙な日常の中で時間を作っては練習を積み、また長きにわたって交流を重ねてこられました。特に今回の演奏会では、大震災によって練習場所の確保が難しくなった等の苦労もあったと伺っておりますが、音楽のすばらしさを分かち合い、青春の絆を育み、練習を継続してこられた四大学合唱連盟の皆様が、それを乗り越えて演奏会開催を実現されたのは本当に素晴らしいことだと思います。

これから披露される演奏では、そうした皆様の交流の成果が遺憾なく披露されることでしょう。

ご来場の皆様、どうか心ゆくまでお楽しみいただきたいと思います。本日この会場に集まれたすべての皆様のますますのご発展をお祈り申し上げますとともに、今後の四大学の結びつきがますます強固なものとなりますことを願っております。



同志社大学学長  
**八田 英二**

「第18回東西四大学OB合唱連盟演奏会」が開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

クローバークラブは1954年(昭和29年)の創部で、本年で57年目を迎えています。その活動の一環として、東西四大学合唱団OBの方々による相互の協力と並々ならぬ努力によって34年の長きに亘って演奏会を継続してこられた皆様の情熱あふれる活動に対し、深く敬意を表する次第です。

我が国は、本年3月11日に未曾有の東日本大震災に見舞われ、未だ復旧・復興途上にあります。震災の数日後、報道関係者から避難所生活を送っている被災者への「今何が欲しいですか。」の問いかけに、多くの方から「歌が聞きたい。」との答えがあったと報道されたことは、記憶に新しいところでもあります。

音楽を含む芸術は人の心を豊かにし、如何なる状況下にあっても人の心の支えであり、感動と勇気を与えるものであると確信しております。

演奏会の最後に、「歩き続けよう 希望を胸に そうとも、君は一人じゃない。」の歌詞による励ましの歌を被災者へのメッセージとして全員で歌われると聞いております。この皆様の心の歌声が、大変なご苦労をされている被災者の方々の心に届く事を会場の皆様とともにお祈りしたいと思います。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらずご来場いただきました観客の皆様をはじめ、本日の演奏会のためにご尽力いただきました関係各位の皆様にご深く感謝申し上げます。

本日のご盛會と、貴連盟の今後ますますのご発展と、四大学の親交がさらに深まることを心からお祈りいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



エール交歓

I 稲門グリーンクラブ  
男声合唱のための「四つの仕事唄」

はやしだ  
囃し田 広島県民謡／編作曲：小山清茂

いしきりうた  
石切唄 小豆島民謡／編作曲：小山清茂

どうつき  
胴搦き 作詞：小山清茂／作曲：小山清茂

さかやうた  
酒屋唄 岩手県民謡／編作曲：小山清茂

指揮 佐藤 拓  
和太鼓 原田祥吾

II 新月会  
「黒人霊歌」

Roll, Jordan, Roll! 編曲 Marshall Bartholomew

I Got Shoes 編曲 Marshall Bartholomew

Steal Away 編曲 Marshall Bartholomew

Little Innocent Lamb 編曲 Marshall Bartholomew

My Lord, What a Mornin' 編曲 Fenno Heath

Didn't My Lord Deliver Daniel 編曲 Fenno Heath

指揮 広瀬康夫

～Intermission～

III 慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団  
男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」

1 冬野

2 最後の雪に

3 春愁

4 天上沢

5 牧場

6 かけす

作詩 尾崎喜八  
作曲 多田武彦  
指揮 仲光 甫

IV クローバークラブ  
男声合唱組曲「水のいのち」

1 雨

2 水たまり

3 川

4 海

5 海よ

作詩 高野喜久雄  
作曲・編曲 高田三郎  
指揮 山下裕司  
ピアノ 木下亜子

V 合同演奏  
男声合唱曲「岬の墓」

作詩 堀田善衛  
作曲 團伊玖磨  
編曲 福永陽一郎  
指揮 当間修一  
ピアノ 木下亜子

# 稲門グリークラブ

## 曲目解説

### 男声合唱のための「四つの仕事唄」

「仕事唄」とは労作民謡とも呼ばれ、その名の通り労働とともに歌われる民謡のことである。かつての日本では、農業、鉱業、漁業、土木業などあらゆる労働において唄が歌われていた。それは、労働そのものの過酷さを和らげ、共に仕事をする者同士の意気と連帯を高めるのに必要不可欠なものであり、また時計のない時代には作業の経過時間を測る目安ともなった。小山清茂(1914~2009)は、仕事唄がまだ生活の中に息づいていた時代を知る作曲家であり、この作品では元の仕事唄の形式や雰囲気できるだけ残したまま合唱化している。曲は全部で4曲からなる。

#### はやしだ 【囃し田】

中国地方山間部の田植唄。大地主の田で、丸一日をかけて祭りのように華やかに行われていた。早乙女(そうとめ)とよばれる大勢の女性たちが、囃しと音頭取りの唄に応えるように、歌いながら苗を植えていく。この曲はおそらく広島県東部のもの。



#### いしきりうた 【石切唄】

良質な石の産地である瀬戸内海の小豆島で、山から石を切り出す際に歌われていた。大きなカナヅチで石にノミを打ちつける重労働であるが、旋律はのびやかで起伏に富んだ追分調である。

#### どうつき 【胴搦ぎ】

「よいとまけ」の掛け声が特徴的な地固め作業の唄。家などの土台造りの際に、大きな丸太を何人も男が縄で吊るしあげ、勢いよく落とすことで地面を固めた。この曲のみ原曲は無く、作曲家の幼年時代の記憶をもとに書かれたオリジナル作品。

#### さかやうた 【酒屋唄】

岩手県を中心に酒造りを営む南部杜氏(とうじ)が、酒造りの作業とともに歌っていた。冬の酷寒の中で精緻な時間感覚を要する酒造りにおいては、「唄も半給料」と言われるほど唄は重要なものだった。この編曲は、三つの異なる作業の唄を組み合わせ構成されている。



本日の演奏では、各曲の合間にこれらの仕事唄と関連のある民謡を挿入しながら、実際に仕事唄が歌われていた景色をいくばくかでも再現したいと考えている。

(佐藤 拓)



#### 指揮 佐藤 拓

岩手県出身。早稲田大学第一文学部ドイツ文学専修卒業。在学中は早稲田大学グリークラブの2002年度学生指揮者を務めた。卒業後、イタリア・パドヴァに留学しMaria G.Munari女史に声楽を師事。World Youth Choir(世界青少年合唱団)の日本代表(2006、2007、2007-08 Winter Session)のほか、ジャパン・ユース合唱団(2004-2010年)、アジア・ユース合唱団(2006、2009)にも参加して研鑽を積む。現在、古楽アンサンブル「コントラポント」、コレギウム・ムジクム仙台、男声アンサンブル「イエノーリャ・ラウラヤット」等のメンバー。東京稲門グリークラブ指揮者。声楽を捻金正雄、大島博、森一夫の各氏に、ピアノを千葉和子氏、古楽を花井哲郎氏に師事。



#### 和太鼓 原田 祥吾

1991年生まれ。早稲田大学文化構想学部表象メディア論系在学中。逗子開成中学・高校在学中より和太鼓部に所属、現在は同校OBを中心とした団体に活動している。早稲田大学グリークラブ2年生。



## 団紹介

このたびの東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の日も早い復興をお祈り申し上げます。

母校・早稲田大学の創立125周年と時を同じくして、早稲田大学グリークラブが創立100周年の節目を迎えたのが4年前でした。母校の創立記念日にオールワセグリフェスティバルを開催し、大隈講堂の前で現役・OB総勢700名にて校歌を大合唱しました。翌2008年には、サントリーホールにて次の100年に向けた演奏会を開催いたしました。

グリークラブOB会は今年創立59周年、OB総数は約1,500名になります。大学男声合唱団衰退のトレンドの中、現役・早稲田大学グリークラブは依然100名を超える陣容を維持し活躍していますので、次の100年に向けて明るい希望もっています。

私共OB会の傘下には、東京稲門グリークラブ、大阪稲門グリークラブ、横浜稲門グリークラブ、稲門グリークラブ・シニア会、早稲田大学グリークラブOBメンバーズ、倶楽部グリー等の合唱団があり、普段はそれぞれが演奏会を開催し活動しています。日頃は様々な団体に活動しているメンバーが、この東西四大学OB連盟演奏会や東京六大学OB連盟演奏会等の際にはOB会からの呼びかけに応え、「稲門グリークラブ」という名称でステージに臨んでいます。

そして、本日はその「稲門グリークラブ」の旗のもと、平成15年卒と若い佐藤拓君の指揮で、「四つの仕事唄」を披露します。どうぞお楽しみください。

#### Top Tenor

長沢 護 (S36) 安齋 真治 (S47)  
真下 武夫 (S36) 平林 義典 (S47)  
清水 實 (S38) 市橋 信男 (S50)  
頼原信二郎 (S42) 江澤 孝政 (S51)  
金岡 隆 (S42) 武内 正 (S51)  
島木 雄哉 (S44) 佐藤 宗治 (S54)  
斉藤 利美 (S45) 清水 稔夫 (S55)  
鈴木 孝 (S46) 高野 恭一 (S55)  
日和佐省一 (S46) 町田 明 (H15)

#### Second Tenor

鎌田 龍児 (S35) 木村 寛之 (S53)  
館野 美久 (S36) 井上 靖夫 (S56)  
白井 猛 (S38) 平田 耕造 (S57)  
越田信市郎 (S39) 飯泉 悟 (S61)  
工藤悠一郎 (S40) 石川 了 (S61)  
正木 規之 (S42) 田中 規之 (S61)  
大山 重雄 (S45) 近田 修一 (H6)  
古村 高 (S51)  
浅野 幸伸 (S52)

#### Baritone

徳田 浩 (S31) 熊谷 恒人 (S47)  
豊田 千秋 (S35) 星 賢太郎 (S47)  
田中 一成 (S37) 大部 孝広 (S54)  
新井 永生 (S37) 土井 功介 (H12)  
塚越 政夫 (S39) 古賀 弘晃 (H20)  
島崎 憲利 (S40)  
三雲 孝夫 (S40)  
相田 一雄 (S45)  
今澤 哲朗 (S45)

#### Bass

辻 壽 (S34) 道浦 俊彦 (S59)  
辻田 行男 (S37) 笹原 優樹 (S59)  
清水 卓爾 (S40) 大石 諭 (H15)  
和田 清 (S42) 小田 浩豊 (H15)  
江連 孝雄 (S48)  
溝田 俊二 (S48)  
安野 秀明 (S50)  
福島 敬 (S55)

# 新月会

## 曲目解説

### 「黒人霊歌」 6 Traditional Spiritualsの風景

#### 1. とうとうと流れるヨルダン川 〈Roll, Jordan, Roll〉

虐げられた奴隷達が求める安らぎの国。主はしみじみと答えられる。「わかった。今はもう神の国に落ちていて、ヨルダン川の流りに耳を傾けなさい」と。

神の命を受けたモーゼは、奴隷生活のイスラエルの民を率いてエジプト脱出。長旅の末、ヨルダン川を越えて、神との約束の地カナン(現在のパレスチナ)に辿りつく(旧約聖書「出エジプト記」)。

ヨルダン川は、イスラエルを南北に流れる。しかし信仰の上では、ヨルダン川は、この世と天国との間に流れるのだ。

#### 2. 靴を貰ったよ 〈I Got Shoes〉

「神さまから、特別に靴、翼そして堅琴まで授かった」と、欣喜雀躍の信者が天国での生活を夢見て歌う。

#### 3. こっそり逃れよう 〈Steal Away〉

「イエス様のもとへこっそり逃れよう。ここには長く居たくないんだ」と悲痛な訴え。

奴隷主一家を惨殺するという奴隷ナット・ターナーの反乱事件があった(1831年)。反乱者は縛り首となり、農園での奴隷の祈禱集会は禁じられ、奴隷の行動規制は強化された。しかし、奴隷たちのキリスト信仰と霊歌の歌唱はやまず、秘密の集会は続いた。彼らは居住地域から遠く離れた小屋や森の中にひそかに集まった。

この曲は、その秘密の集会があることを仲間知らせる暗号の歌だったと云われる。

#### 4. 罪なき純真な子羊 〈Little Innocent Lamb〉

旧約聖書の詩篇23篇にはダビデ作の〈主はわが牧者なり(The Lord is My Shepherd)〉がある。「牧者」とは「羊飼」のこと。主を良き「羊飼」に、自分たちをその羊に例える。良き「羊飼」は、「羊」を生かすためには自らの命を捨てるほど愛してくれると、ダビデは謳う。

この曲では、偽善者や悪魔が出てくるが、主は罪なき信者を守り、信者たる子羊は〈I'm a-gonna serve God till I die(私は一生、神にお仕えます)〉と12回も唱えて、主の恵みと憐みをひたすら祈り、天国への道(こいねが)を希うのである。

#### 5. わが主よ、なんと朝なんでしょう 〈My Lord, What a Mornin'〉

星が降り始める、この不思議な朝。信者たちは神の右の手にひたすらおすがりするのである。

〈マタイによる福音書〉や〈ヨハネの黙示録〉には、イエスの再臨と神の最後の審判のことが語られ、星が天から降るなど神秘的な光景が描写されている。

〈神の右の手(God's right hand)〉とは？それは「神さまの力と愛と真実を表しており、その手には私たちの手が固く握られているので、私たちは安心して憩うことができる」といわれる。

#### 6. 主はダニエルを救わなかったか 〈Didn't My Lord Deliver Daniel〉

ダニエルは旧約聖書に登場する人物。このダニエルは讒言によって、バビロンの地でライオンの洞窟に投げ込まれる。しかし、神は、ダニエルの祈りに応えてライオンの口を封じダニエルを助け出されたのだ。

「このように、主はダニエルを救われた。だから、我々だって救われないことはないんだ」といろいろと例示を挙げて神への信頼(うた)を謳いあげる。

黒人霊歌の解放のメッセージは、このように神さまが被抑圧者を救い出されるという聖書の教えに基づいている。しかし、こんな見方もある。「黒人たちは、ある意味では白人たちの教えるキリスト教をきっぱりと否定していると言える。つまり死んでから天国に行けるという形だけでなく、この現世でも、神は祈りに応えて奴隷である我々を救ってくれるはずだ、ダニエルを救ったように、という主張がはっきりと歌われている」(cf. 小川洋司「深い川のかなたへ」)

(Y.Y.)



### 指揮 広瀬康夫

神戸に生まれる。関西学院高等部を経て関西学院大学経済学部を卒業。グリークラブでは学生指揮者を務める。1987年より関西学院に勤務し、グリークラブをはじめ多くの合唱団の指導にあたり共にカルテットやソリストとしても活動する。1999年BHS(Barbershop Harmony Society)に登録し日本でのバーバーショップハーモニーの普及に努める。故北村協一氏に指揮法を、大久保昭男氏、井上和世氏に声楽を、Egisto Matteucci氏に教会音楽及び合唱指導を師事。現在、関西学院グリークラブ技術顧問、新月会指揮者、コール・セコインデ常任指揮者、バーバーショップコーラスPriceless指揮者、金沢メンネルコール客演指揮者、九州フレッシュメンコア技術顧問、グリークラブ香川技術顧問、日本男声合唱協会(JAMCA)個人会員、平成指揮者十人の会同人、BHS(本部アメリカ)会員、MHBQA(混声バーバーショップ協会、本部アメリカ)会員、日本バーバーショップ・カルテット協会代表。



## 団紹介

### ◆77年前に結成

新月会は、関西学院グリークラブOB有志が77年前、1934(S9)年9月に結成しました。因みに関西学院グリークラブは112年前の1899(M32)年に誕生。

結成の有志メンバーは、卒業後も現役とともに合唱活動を続けていた8人、グリークラブ顧問の教授、そして昭和9年卒業生4人、総勢13人でした。その卒業生の中に、関西学院グリークラブ/新月会のカリスマ的指導者となる林雄一郎(2004(H16)年没)の名がありました。

### ◆現在の活動状況

会員数は約1100名を数えます。

年次の定期演奏会は、中学部、高等部、大学の各グリークラブ及び新月会の〈グリークラブ・ファミリー〉による「関西学院グリークラブ・フェスティバル」の開催、並びにグリークラブ定期リサイタルへの賛助出演であります。時には新月会単独のリサイタル、その他、各種団体からの依頼演奏に出演します。

### ◆あの戦争の最中にも黒人霊歌

私たちは六曲の黒人霊歌を演奏いたしますが、ちょっとユニークなエピソードをご紹介します。

もう70年も昔、太平洋戦争勃発の1941(S16)年、黒人霊歌を「おとぎ話」に変身せしめ、先人たちは臆することなく歌い出したのです。敵国音楽に対する統制が厳しくなって来たご時世なのに。

"Keeping the Middle of the Road" という有名なマーチ風の長いスピリチュアルがあります。これを「桃太郎」に焼き直して、「昔、むかしのお話しませんか。昔、むかしのお話を」と始まり、鬼が島に攻め入り、犬、猿、雉を引き連れて桃太郎が堂々の凱旋、という3番までの構成です。

演奏旅行でも大もて。ラジオ放送までやったという話が最近、わかりました。この名作は、故・林雄一郎の実弟、今は亡き林英太郎でした。

この他、"Steal Away"を「こころ」と題し、「風はさやぎ雲は高し/鳥は雲より高きを求む 青海はいかに澄めるも/我はなほ清く深きを求む」となり、さらに"Jerico"は「案山子」に変身、「オカシナカオシタ カカシ カカシ〜」となった。この作詞は林雄一郎でした。

黒人霊歌との永年のお付き合いと因縁をご披露いたしました。なお、今回は原語で歌います。

(Y.Y.)

### Top Tenor

尾田 義行 (S27) 坂口 和彦 (S58)  
山下 弘 (S30) 吉田 進一 (S60)  
圓井謙三郎 (S32) 重松 浩 (S61)  
井上 勝博 (S34) 辰 信太郎 (H1)  
細井 修二 (S39) 長尾 雅典 (H1)  
山本 浩 (S39) 津口 雅哉 (H18)  
厚地 秀昭 (S40)  
勝部 正嘉 (S41)  
森本賢志郎 (S45)  
西村 紀彦 (S57)

### Second Tenor

出口 護 (S30) 山本 信 (S43)  
菅沼 範治 (S36) 金井 吉光 (S49)  
山崎 巖 (S39) 吉本 耕治 (S50)  
小野 和彦 (S41) 中野 吉弘 (S53)  
小林 敏次 (S41) 木田 雅夫 (S57)  
酒井 邦彦 (S42) 橋本 尚樹 (S59)  
志木田 弘 (S42) 平田誠一郎 (H10)  
谷上 克美 (S42)  
谷本賢志郎 (S42)  
津田 克邦 (S42)

### Baritone

矢島 康弘 (S30) 永田 幸雄 (S46)  
北川 勝治 (S32) 高谷 哲司 (S48)  
山崎 英雄 (S37) 柿木 厚 (S53)  
福角 和彦 (S39) 広瀬 康夫 (S55)  
本谷 紀吉 (S39) 八木 徹 (S60)  
赤松 正昭 (S41) 田井中豊喜 (S61)  
小池 義郎 (S42) 辻 伸高 (H11)  
西川 康夫 (S42)  
隈下 正臣 (S43)  
山本日出男 (S45)

### Bass

今川 安雄 (S33) 多田 雄一 (S54)  
福島 一晃 (S35) 谷川 晴之 (S54)  
山口 修三 (S36) 中井 三夫 (S54)  
室谷 龍 (S37) 加納 真一 (S56)  
安藤 格 (S39) 山田 真也 (S58)  
川村 輝夫 (S39) 吉谷 浩一 (S63)  
木村 昭 (S41) 矢橋 洋 (H11)  
永井 忠 (S43) 高木 俊一 (H18)  
倉田 秀昭 (S44) 岡田 栄樹 (H23)  
飛鷹 誠 (S48)

# 慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団

## 曲目解説

### 男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」

男声合唱曲にこれまで多くの名作を送り出し、今なお作曲活動を続けている多田武彦(1930～)であるが、その創作歴には何回かの「休止期間」がある。

有名なのは組曲《雨》(1967)に至るまでの数年間のブランクで、この時期の作曲家を取り巻く状況、苦悩については本人からもたびたび語られている。今回とりあげる《尾崎喜八の詩から》(1974)もおよそ3年間の「休止」ののち生まれた作品であった。

17年ぶりに故郷の大阪に帰った多田武彦は、関西学院グリークラブからの依頼に応じ、久々に新作を書くことになったのだが、そこではじめて尾崎喜八の詩に出会う。とくに終曲に用いた「かけす」との出会いは作曲家に大きな動機、インスピレーションを与えたようだ。

「詩に寄り添うように」を作曲のモットーとしてきた多田武彦の選詩眼は独自のセンスを備えているが、散文に近いとも言える尾崎喜八の自由詩への作曲は彼にとっても挑戦だったであろう。

しかし作曲家本人が「じっくり取り組んでゆくと、そこには"そのまま音楽になっても不思議でない構成力"と"暖かい人間性と自然への素朴な讃歌"があった」(初演プログラムより)と語るように、実に自然な形でことばと音楽を融合させることに成功している。全体のドラマにも事欠かず、かつ美しい、魅力的な旋律も随所に散りばめられている。

久々の作曲であることの気負い、迷いはもはや感じられず、清新さと表現意欲、そして作曲家の成熟が見事なバランスを成した印象深い作品である。

#### 「作詩者:尾崎喜八について」

尾崎喜八(1892～1974)。東京都に生まれる。生後すぐに実母が離婚、4歳になるまで自然豊かな里子先で育てられた。商業第一主義者の父親の下、商業学校卒業後は銀行に勤めるが、親から解放されたことを契機に文学・音楽に傾倒し、特に高村光太郎、トルストイ、ロマン・ロランから強い影響をうける。また、高村光太郎や「白樺」の同人たちと交流し、文芸を著すようになる。その後、結婚問題による勘当、妻の病死、関東大震災を契機にした父との和解といった波乱を経験し、その波乱の中で文学への志を固め再婚後は農作の傍ら文学に専念する生活を送る。しかし、自らも文章の上で協力した戦争後、隠棲することを決意し、長野県諏訪郡富士見、東京都上野毛へと居をうつす。そして最後の隠棲先の鎌倉で82歳の生涯を終えた。

その詩は日常口語の平明さの中に理想と人間を歌い上げ、厳密な理性がそれを支えるものである。また、自然に対する鋭い観察と愛情、音楽愛好者としての音楽的な詩情が反映されている。主要作品は、詩集「尾崎喜八詩文集」、翻訳「ヴィルドラック詩集」「ヘッセ詩集」「リルケ詩集」「慰めの音楽」(J.デュアメル)、著作「山の絵本」「音楽への愛と感謝」などがある。



#### 指揮 仲光 甫

横浜生まれ。慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団において2003年度学生指揮者を務める。同年行われた第3回はこね学生音楽祭では、ワグネル有志で結成したアンサンブル「ACT」を指揮し最優秀賞を受賞し、以来数々のコーラスを指導・指揮している。2006年からは男声4人によるヴォーカル・グループ「jammin'Zeb」のメンバーとしての活動を開始し、翌年10月にはビクター・エンターテインメントよりアルバム「Smile」でデビュー。国内外での演奏活動のほか、NHK-BS「魅惑のスタンダードポップス」、「映画音楽に乾杯！」などの音楽番組にも出演し活動の幅を広げている。



## 団紹介

慶應義塾ワグネル・ソサイエティーは、ドイツの大作作曲家R. ワグナーを敬慕する塾生が集って1901年(明治34年)に発足しました。ワグネルは創立後、オーケストラに、合唱に幅広く活発な活動を続け、戦前には、日本のクラシック音楽界は「上野の音楽学校(官)と慶應のワグネル(民)」の両輪によって支えられたと言われていました。

発足以来、男声合唱団とオーケストラが一緒になって活動をしていましたが、戦後女声合唱団が加わり、現在では、オーケストラ・男声合唱団・女声合唱団の3団体それぞれが独立した活動をしています。2001年にはワグネル創立100周年を迎え、また、本年はワグネル創立110年ということで、3団体の現役・OB・OGが一堂に集い、11月30日に記念合同演奏会を開催する予定です。

OB合唱団は、男声合唱団の卒団生有志により、1953年(昭和28年)に結成され、以来今日まで紆余曲折はありましたが継続的に絶えることなく活動を続けています。OBの仲間には、ポピュラーコーラスの先駆者であるダークダックス、またプロのオペラ歌手として堀内康雄、大久保光哉、谷口伸、そしてジャズコーラスユニット・ジャミンゼブの仲光甫などがいます。現在1,200名を超える男声合唱団OBのうち、常時60名以上が「OB合唱団」に参加しており、週1回定期的に練習を行っています。また、関西在住のOBも定期的に大阪にて練習を重ね、OB四連のほかにも定期演奏会にも一緒にステージに臨んでいます。2003年(平成15年)11月には東京芸術劇場にてOB合唱団創立50周年記念定期演奏会を開催。2008年にはOB全学年が4学年毎にグループを組み、現役時代の思い出を歌いあう第4回ガラコンサート(ステージ上の同窓会)を開催し、ワグネルOBの誇りと喜びを皆で分かち合いました。

本日は、ジャズコーラスユニット・ジャミンゼブのリーダー仲光甫君を指揮者に迎え、「尾崎喜八の詩から」を演奏いたします。ワグネルのアカペラをご期待ください。

#### Top Tenor

- 小田澤克明 (S36) 亀井 淳一 (S59)
- 下田 博郎 (S36) 高橋 和宏 (S59)
- 内田 善朗 (S39) 角本 雅宣 (S60)
- 丸山 修扶 (S39) 近藤 大介 (H1)
- 高谷 豊 (S40) 西山 泰之 (H8)
- 岡本 雅臣 (S41) 高田 俊吾 (H9)
- 小嵐 正昭 (S43) 小二田 章 (H15)
- 中曾根晟二 (S43)
- 宮本 光男 (S45)
- 久富 有道 (S51)
- 永井 幸雄 (S53)
- 清水 豊 (S54)
- 白子 幸夫 (S55)
- 田幡 克介 (S58)

#### Second Tenor

- 武田 弘 (S26) 高橋 紀昭 (S43)
- 阿武満寿夫 (S35) 松井 津 (S44)
- 船曳 茂彦 (S36) 池上 義雄 (S47)
- 田村 禎章 (S37) 蒲地 隆 (S48)
- 公森 光郎 (S37) 間瀬 謙 (S51)
- 佐藤 剛一 (S38) 吉住 泰広 (S56)
- 上田 靖 (S38) 今井 達也 (S59)
- 鈴木信一郎 (S38) 翁長 良二 (S59)
- 浜野 憲衛 (S38) 中田 一夫 (S60)
- 日野 忠彦 (S39) 山香 朗 (S60)
- 荒巻 昶人 (S40) 中嶋 大智 (H16)
- 佐藤 紘 (S40)
- 田所 忠夫 (S40)
- 横内 憲一 (S42)

#### Baritone

- 中野 和明 (S28) 玉木 修 (S43)
- 小笠原 弘 (S31) 根立 正史 (S43)
- 倉知 恒 (S35) 新井 正隆 (S44)
- 池田 寛水 (S36) 宇佐美章久 (S45)
- 山村 信一 (S37) 足利 光一 (S48)
- 佐藤信太郎 (S38) 松浦 行男 (S48)
- 藤平 芳紀 (S38) 阿波田 尚 (S56)
- 宇賀神一雄 (S39) 桑田 一徳 (S58)
- 岡本 尊志 (S39) 田村 雄司 (S58)
- 渡邊 昇 (S39) 長尾 雄平 (S58)
- 斉藤 征彦 (S40) 澤口 雅昭 (S59)
- 竹内 靖浩 (S40) 五味健二郎 (H6)
- 森田 和男 (S40) 五十嵐俊朗 (H14)
- 米田 嗣幸 (S41)

#### Bass

- 村田 亮 (S28) 吉川 信男 (S47)
- 杉野 茂信 (S29) 藤本 正和 (S48)
- 古谷野 晃 (S35) 須田 和宏 (S58)
- 棚井 俊雄 (S36) 保坂 文一 (S59)
- 小貫格三郎 (S37) 御船 鋼 (H3)
- 久保田 奨 (S38) 小嶋 聡 (H16)
- 池田 靖 (S39) 石川 聡 (H20)
- 山田 潤二 (S39)
- 山田 武司 (S39)
- 掛川 毅雄 (S40)
- 山内 治輔 (S40)
- 芳川 雅美 (S40)
- 中森 孝夫 (S41)
- 境田 正俊 (S45)

# クローバークラブ

## 曲目解説

### 男声合唱組曲「水のいのち」

『たしかに木々における根と梢のように、逆向きの二つのものは一つのいのちを垂直に立たせます。根は地への飢え、梢は空への限りない飢えなのでした。(中略)ぼくたちが木々を見つめるのは、あくまでも木々を通してぼくたちをでなければなりません』  
(高野喜久雄著「とりとめのない手紙」より)

高野喜久雄の詩は比喩に満ちている。「水のいのち」において、雨は雨でなく、水たまりは水たまりではない。詩人は水のその折々の表層を見つめ、その中に自己の存在を探し出す。そうして探し当てた自らの内なる心を、もう一度水の姿に戻して言葉を紡ぐ。やがて詩人の心は、言葉の海深く身をひそめる。

組曲を通して流れるテーマは「空へのこがれ」だが、物語の中の水は、抗うすもなく下ってゆく。神と人間、夢と現実、もしくは希望と落胆。上に伸びようとする願いと下へ引き戻そうとする力、二つのベクトルの狭間にある、水の姿をした私たちのいのち。

地球上のすべてに「降りしきれ」と神の愛を願い、現実の墮落した世界を嘆く。どこにでもある水たまりの、その泥の中に見つけたちぎり、うなぎ、まどい。そして「空を うつそう」とする小さな心、「けれどもいちぢないのち」。「何故 さかのぼれないか」と、狂おしいまでに怒り、それでも山にこがれ、空の高みにこがれ、石や魚をみごもる。しかしやはり「下へ下へと ゆくほかはない 川の流れ」その不条理。やがて安らぎの場所、母なる海で「充ち足りた死」を迎える「そっと岸辺に」うち上げられて。そして深く暗い海の底から、白い雪となって「下から上へ 降りしきる」。「みえない つばさ」「いちぢな つばさ」は私たちの願い、望み、思い。そうして、こがれは「水のいのち」となって空へのぼってゆく。「のぼりゆけ」と。

最後に作曲者の言葉を引用してこの稿を閉じよう。

『人にはまた精神というものもあり、その精神が賛成しているものでなければ、どのような生き方をしても、人はそれに満足することができない。その「精神」に目と心に向けてもらうために、この「海」を含む合唱組曲を書こう、と私は決めたのであり…』

(高田三郎著「来し方 回想の記」より)

(山下裕司)



#### 指揮 山下裕司

1970年、同志社香里高校入学と同時にオルフォイスグリークラブに入部。故西郷辰三郎氏の指導を受け第14代学生指揮者として活躍する。1973年同志社大学経済学部入学。同志社グリークラブでは大学2年生の時に、アメリカで行われた第4回世界大学合唱祭に参加。1ヶ月にわたるコンサートツアーを経験する。4年生になり第45代学生指揮者に就任。故福永陽一郎、大久保昭男両氏の教えを受ける。卒業後はクローバークラブ、京都ユネスコ国際合唱団等の指揮を務め、クローバークラブでは台湾(2回)、韓国(2回)、ハワイ(2回)各演奏旅行に参加、指揮者としての経験を積む。現在はクローバークラブの他に、同志社混声合唱団、コールドルチェの指揮者、コール「HEART」の団長、またゴスペルクワイヤー「Yosshiy's」の指揮者としてコンテストやライブへの出演など活動の幅は広い。また昨年同志社大学田辺キャンパス周辺の合唱団のメンバーで組織した男声合唱団「KMC」を立ち上げ、団長兼指揮者を務めている。さらには同志社グリークラブOB会の副理事長(現役担当)として、後輩たちの良き相談相手にもなっている。

#### ピアノ 木下亜子



## 団紹介

学生時代の合唱の喜びを忘れられないものたちが1954年、同志社グリークラブの創部50周年を機に、大阪を中心にグリークラブOB合唱団として誕生したクローバークラブ。東京では1958年に、1976年には名古屋でも発足しました。草創期には全日本合唱コンクールでの3連覇や、数多くの委嘱曲、毎年の東西での演奏会と歴史を積み重ねてまいりました。途中1973年の第18回定期演奏会の後しばらく中断をしていましたが、1976年に同志社グリークラブOB会が全国組織として正式に発足し、この強力な推進母体をバックに新クローバーが新たにスタートしました。その初ステージは1977年から始まった第1回OB四連であります。それからの34年、OB四連はもちろんのこと、それぞれの単独演奏会や台湾・ハワイ・韓国などへの演奏旅行も複数回に及ぶなど精力的な活動を続けております。

一昨年は大阪が「更紗模様」、今春は東京クローバーが「落葉松と焚き火」と、それぞれ多田武彦先生に組曲を委嘱し、それぞれ初演の演奏会を開催いたしました。また、昨年は東京が韓国へ、大阪クローバーが台湾への演奏旅行を行い、国際交流への貢献を果たしました。普段はそれぞれ独自の活動をしておりますが、いざ一緒にとまると広く全国のOBも集結し、特にOB四連では、浜松などでの合同合唱練習を常としています。

また、今春には若手(といっても40・50歳代中心ですが)50人がOBシンガーズを結成し、往年の同志社グリートーンを復活させ、大阪で第1回の演奏会を開催いたしました。この輪はますます大きくなり、エントリーメンバーは現在80名を超え、来春には東京へ乗り込むとか…。

創設時のメンバーから、今春卒業したばかりの23歳の若者まで、最高齢81歳、平均年齢63歳の110数名。変わらぬ熱い想いで歌います。

本日演奏いたします「水のいのち」は、もともとは混声ですが、男声で歌いたいとの強い願いを持って、クローバークラブが高田三郎先生に男声版への編曲をお願いし、1972年4月に東京で、11月に大阪でクローバークラブが初演をしたものです。初演時のメンバーももちろん歌います。39年目の水のいのちです。

#### Top Tenor

佐々木正義 (S31) 西山 勲 (S59)  
南迫 卓一 (S33) 尾池 智治 (S61)  
河野賢太郎 (S36) 富倉 智彦 (S62)  
大熊 政次 (S40) 三宅 厚志 (S62)  
影田 武道 (S41) 石井 元博 (S63)  
北村 徹男 (S41) 八幡 諭 (S63)  
小室 泰司 (S41) 岸間 昭一 (H4)  
池田 研一 (S42) 林 克己 (H5)  
鹿野 勝 (S42) 阪本 大輔 (H12)  
沢井 浩一 (S42) 種田 成昭 (H20)  
上野 成一 (S44) 中村 透 (H23)  
橋本 晴海 (S49)  
伏村 淳二 (S51)  
荒川 匠平 (S53)  
中山 篤 (S54)  
鈴木 恒一 (S56)  
豊田 尚紀 (S59)

#### Second Tenor

齋藤 勲 (S28) 井口 仁 (S52)  
菅野 弘 (S31) 森島 敏夫 (S53)  
犬井 晃 (S32) 樋上 雅人 (S54)  
新矢 起大 (S34) 辻 透 (S60)  
大山 望 (S37) 高梨 純 (S62)  
岩木 六馬 (S39) 田中 祐之 (H1)  
牧野 章造 (S39) 栃木 義博 (H1)  
畑 恵郎 (S40)  
山口 達夫 (S40)  
明神 宣生 (S40)  
小亀 豊 (S41)  
石黒 武 (S42)  
岩谷 誠之 (S42)  
荒井 直 (S43)  
魚谷 庄司 (S43)  
松本 公郎 (S44)  
前田 憲一 (S47)

#### Baritone

門田 耕一 (S30) 村西 耕爾 (S41)  
橋 守 (S31) 白井 孝 (S42)  
野岡 明 (S31) 西村 肇 (S42)  
野村 忠 (S31) 吉田 孝昭 (S42)  
大友 慶介 (S34) 遠藤 好俊 (S43)  
宮副 隆好 (S34) 川上 貴裕 (S43)  
山岡 義明 (S34) 弘瀬 嘉夫 (S53)  
米田 治夫 (S34) 福澤 敬 (S54)  
川添 正 (S36) 多々 清爾 (S56)  
村田 由高 (S36) 芦田 直幸 (S57)  
森本 潔 (S36) 北尾 俊明 (S57)  
山田 英二 (S36) 小田垣正美 (S58)  
阿部 光夫 (S37) 長谷川恵一 (S59)  
幸田 長明 (S38) 梅田 隆司 (S63)  
真野 光長 (S38) 日笠 喜元 (H3)  
牧田 勝久 (S39) 山下 祐輝 (H19)  
滝沢 裕人 (S41)

#### Bass

吉田庄之介 (S29) 山田 浩二 (S54)  
梶井 文治 (S32) 増田 佳昭 (S56)  
市島 章三 (S34) 筒井 隆文 (S57)  
荘司 和樹 (S34) 鋒山 琢磨 (S59)  
盛田 忍正 (S36) 中村 洋 (S62)  
田中 惺 (S37) 松本 崇 (H15)  
後藤 健夫 (S39)  
鈴木 謙介 (S39)  
大原 康弘 (S41)  
栗山 昭男 (S42)  
館 和道 (S42)  
外村 俊夫 (S42)  
神谷 洋司 (S43)  
柳原 高志 (S43)  
坂東 憲治 (S44)  
稲熊 裕之 (S53)  
松本潤一郎 (S53)



# 合同演奏

## 曲目解説

### 男声合唱曲「岬の墓」

鮮やかに美しい景色が険の奥に広がります。影一つ無い真昼の丘、目が眩むほどに煌々と輝いて広がっています。海の色、紺碧の空、その中に漂う白鳥のような白い船、そして白い墓と岩間に咲く赤い花。過去と現代と未来を暗示させながら、死と生を内含する人間の奥深き深遠の心の風景を映し出します。人間が抱える幾多の暗い影。それに抗うかのように魂は永遠の真理を求め、彼方に光る未来へと「美しい白い船」は船出するのです。堀田善衛が綴る鋭く強靱な詩的精神が、作曲家團伊玖磨の雄渾と抒情性に溢れた卓越の作品となって立ち現れたのです。

1963年(昭和38年)に芸術祭賞、文部大臣賞を受賞した混声合唱曲『岬の墓』。その曲が福永陽一郎氏の編曲で男声合唱の名曲として歌い継がれてきました。まさに我が合唱史に於ける特筆すべき足跡(そくせき)です。曲は主要モチーフとなっているベースのハミングから始められます。そのmaestoso(荘厳に)と指示された大きなうねりは、合唱とピアノパート全編に表情を変えながら表れて全体を統一します。そして骨幹を成す勇壮な表情の中にも顔を覗かせる細やかで優美なフレーズは、作曲家團伊玖磨の魅力の骨頂でしょう。半音階的メロディーラインとハーモニーは現代の漂流、彷徨(さまよい)と暗い影の象徴なのか。暗い影を負い、さ迷いながら力強く未来へと船出する「白い船」は、ピアノ伴奏の三連符と主要モチーフに乗せて水平線の彼方の未来、永遠の休らいへと出航していきます。主調の属和音で終わる最後のフレーズ「岩の間に咲く赤い花に われら何を聞こう……」、我々に対する深い呼びかけとなって余韻を残します。

## 指揮者メッセージ

演奏史的に見れば、演奏の伝え方に大きく二つの道があります。

道の歩みの始めは「口伝え」での演奏だったでしょう。誰かが歌ったものを耳コピーよろしく、何度も歌ってもらいながら模倣していく、それが始まりだったと想像します。しかしそれは歌い継がれていく間に歌い手の「個性」が加わって変化していくことになりました。長年に亘って培われてきた様々な個性の蓄積は伝統となり、演奏は魅力的になっていったことでしょう。さて、楽譜が普及してからはどうなったか？楽譜に忠実派と、「解釈」をもって楽譜を補う派に分かれます。ドイツで起こった「Neue Sachlichkeit(ノイエ・ザハリヒカイト)」(新即物主義)の影響がそれに拍車をかけます。随分と行き過ぎた表現法もあったかもしれません。今回、指揮をお引き受けした「岬の墓」は原曲が混声合唱曲の男声合唱版です。尊敬する福永陽一郎氏の編曲。既に伝統となってしまっているだろう男声合唱曲「岬の墓」とどう向き合うか。少しの戸惑いと新しい出会いへの楽しさまで、お引き受けするにあたって大いなる胸のときめきを覚えました。今日の演奏、楽譜に忠実を基本としながら詩と曲から受けるインスピレーションをどこまで表現できるか、実は私が一番楽しみにしているのかもしれない。



### 指揮 当間修一

指揮者。「大阪コレギウム・ムジクム」主宰。大阪音大在学中よりバッハの音楽に傾倒、オルガニスト及び通奏低音奏者として研鑽を積む。1975年大阪コレギウム・ムジクムを設立。76年室内オーケストラ「アンサンブル・シュッツ(現シンフォニア・コレギウムOSAKA)」を創設。又、同じ頃、新しい発声法、新しい運営法、新しい合唱メソッドを生み出し、翌77年「大阪コレギウム・ムジクム合唱団」を創設。その後核となる大阪ハインリッヒ・シュッツ室内合唱団も創設し、以降常任指揮者として、活動をつづけている。「ハインリッヒ・シュッツの作品の演奏」を活動の1つの柱にし、その作品を日本に紹介し続けているとともに、合唱団とオーケストラにおいて、ルネサンスから現代音楽までの魅力ある作品を「現代に生きる」演奏で、紹介し続けている。

1989年～2004年に5度のヨーロッパ、ドイツ公演を行う。(ケストリッツ/シュッツ協会、及び中央ドイツラジオ放送 夏期音楽祭などに招かれる) 1998年文化庁芸術祭音楽部門優秀賞 2001年ABC 音楽賞「クリスタル」賞受賞。 2003年関西合唱連盟より「長井賞」を受賞。 2008年には「OCM 歌唱発声法改訂版」テキスト、「OCM歌唱発声体操」DVDを発表。全国で数々の合唱団を指導するほか、東京や名古屋で定期的に講習会をおこなっている。また、NHK全国学校音楽コンクール、全日本合唱連盟合唱コンクール、宝塚国際室内合唱コンクールなどの審査も務めている。

これまでに28枚のCDをリリース、NHKFM放送などで度々放送されている。

「京都C.モンテヴェルディ合唱団」、女声合唱団「りんどう」、「名古屋ビクトリア合唱団」、「コーロ羽衣」の音楽監督。東京コレギウム・ムジクム合唱団主宰。「エヴァコール」、京都外国語大学混声合唱団「ソレイユ」の技術顧問。大阪薬科大学混声合唱団、名古屋大学医学部混声合唱団の音楽アドバイザー。川西音楽鑑賞同好会の講師。



### ピアノ 木下亜子

京都市立芸術大学音楽学部卒業、同大学大学院修了。ピアノを中谷弘、宮澤功行、神西敦子の各氏に、チェンバロを春山操氏に師事。'95年独・マタイザー夏期講習声楽マスタークラスの伴奏ピアニストをつとめる。'97年釧路音楽協会高後賞受賞。'98年青山財団よりバロックザール賞受賞。'99年イーストマン音楽学校夏期セミナー'99 in 浜松において伴奏ピアノクラスを受講。Jean Barr 教授に師事。'04年ジョイント・リサイタル開催。ソロの他歌曲伴奏・合唱伴奏・室内楽などにおいて活動を行っている。

# 特別演奏

## 「You'll never walk alone」

作詞 Oscar Hammerstein II

作曲 Richard Rodgers

この曲は、1945年に米国でミュージカル「回転木馬」の中の曲として生まれ、60年代には英国サッカーチーム、リバプールFCのサポーターが競技場で大合唱し、応援歌として定着しました。

今回の「東日本大震災」の4日後、欧州で「UEFAチャンピオンズリーグ」が開催された際、約7万人の観客が被災者へのメッセージとして歌い日本でも注目を浴びました。

本日の演奏会の最後に、参加者全員で被災者の皆様に向かい、すみやかな復興と平安の訪れを祈り、応援の気持ちを込めて高らかに歌い上げたいと思います。

私たちのメッセージが届くことを信じて。

When you walk through a storm, hold your head up high  
And don't be afraid of the dark

At the end of the storm is a golden sky  
And the sweet silver song of a lark

Walk on through the wind, walk on through the rain  
Though your dreams be tossed and blown

Walk on, walk on with hope in your heart  
And you'll never walk alone  
You'll never walk alone

人生の嵐の中を進むとき、どうかはっきり頭を上げて行って下さい。

暗闇を恐れなくて下さい。

嵐が過ぎ去れば金色の空に、

ひばりの優しいさえずりが聞こえるでしょう。

風にも負けず 雨にも負けず

たとえあなたの夢が破れ去った様に思える時でも、

心に希望を抱いて どんどん進んで下さい。

何故ならあなたは一人ぼっちではないのですから。

一人だけで歩いているのではないのですから。

(訳 福永陽一郎)

## 現役 今後の活動予定

### 早稲田大学グリークラブ

2011年 11月27日(日) 第59回早稲田大学グリークラブ定期演奏会 (東京文化会館大ホール)

2012年 2月27日(月) チャリティコンサート第61回早稲田大学グリークラブ送別演奏会 (杉並公会堂大ホール)

### 関西学院グリークラブ

2011年 8月10日(水) 第4回金の翼コンサート (西宮市甲東ホール)  
10月 2日(日) 第42回関西学院グリークラブフェスティバル (関西学院高中部礼拝堂)  
10月10日(月) 第66回関西合唱コンクール (伊丹市立文化会館 いたみホール)  
11月19日(土) 第64回全日本合唱コンクール全国大会 (青森市文化会館大ホール)  
12月10日(土) 第20回関西学院グリークラブ 高槻コンサート (高槻現代劇場中ホール)  
12月15日(木) 関西学院クリスマス (関西学院中央講堂)  
12月21日(水) 関西学院クリスマス (大阪 ザ・シンフォニーホール)

2012年 2月26日(日) 第80回関西学院グリークラブリサイタル (兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール)

※詳細は関西学院グリークラブホームページにてご確認ください <http://www.kg-gee.jp/>

### 慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団

9月21日~23日関西演奏旅行 2011年9月21日(水) 和歌山公演 19時開演予定 場所:和歌山市民会館小ホール  
賛助出演団体:和歌山児童合唱団  
2011年9月23日(金) 大阪公演 17時開演予定 場所:茨木市民会館ユーアイホール  
賛助出演団体:春日丘高校音楽部  
曲目 「中勘助の詩から」、ワグネル愛唱歌ステージ 他

ワグネル110周年記念合同演奏会 2011年11月30日(水) 場所:みなとみらい大ホール  
曲目:ダッタン人の踊り 他 指揮者:飯守泰次郎

第136回定期演奏会 2012年1月8日(日) 場所:新宿文化センター大ホール  
曲目:「運命の歌」(指揮:畑中良輔)「中勘助の詩から」(指揮:佐藤正浩)他

### 同志社グリークラブ

2011年 8月24日(水) 四大学男声合唱団サマーコンサート (京都府民ホールALTI)  
10月10日(月) 第66回関西合唱コンクール (伊丹市立文化会館 いたみホール)  
11月19日(土) 第64回全日本合唱コンクール全国大会 (青森市文化会館大ホール)  
12月10日(土) 第107回同志社グリークラブ定期演奏会 (同志社大学寒梅館ハーディーホール)  
12月24日(土) 第47回全同志社メサイア演奏会 (京都コンサートホール大ホール)

2012年 2月18日(土) 第107期卒団生のためのフェアウェルコンサート (同志社大学寒梅館ハーディーホール)

※詳細は同志社グリークラブホームページにてご確認ください <http://gleclub.jp/>

OB四連の軌跡

	年・月・日	会 場	慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団	クローバークラブ	稲門グリークラブ	新月会	合同演奏
1	1977年 7月3日	九段会館ホール	蛙の歌 作詩/草野心平 作曲/南 弘明 指揮/境田正俊	ミサ曲・ト長調 作曲/Franz Schubert 指揮/富岡 健 ピアノ/長島優子 独唱/松井洋子 平松 実 野村 忠 オルガン/劉 千穂	Negro Spirituals 指揮/長沢 護 独唱/藤田昌嗣・岩本孝嗣・山本健二	草野心平の詩から からたちの花 作詩/草野心平 指揮/中西 洋 作曲/多田武彦 指揮/小池義郎	月光とピエロ 作詩/堀口大學 作曲/清水 脩 指揮/北村協一
2	1979年 7月15日	京都会館第1ホール	アメリカ民謡集 指揮/山口健夫	蛙 作詩/草野心平 作曲/多田武彦 指揮/富岡 健	土の歌 作詩/大木惇夫 作曲/佐藤 真 指揮/山本健二 編曲/玉田元康 ピアノ/萩原照彦	荘厳ミサ曲 作曲/Albert Duhaupas 指揮/小池義郎	水のいのちより 作詩/高野喜久雄 作曲/高田三郎 指揮/日下部吉彦 ピアノ/伊吹元子
3	1981年 8月2日	東京厚生年金会館	シューベルト男声合唱曲集 作曲/Franz Schubert 指揮/木下 保 ピアノ/藤森数彦 独唱/笠井幹夫 ホルン/桐朋学園音楽部	Sea Chantyより 指揮/森本 潔	Negro Spirituals 指揮/岩本孝嗣	中 勘助の詩から 作詩/中 勘助 作曲/多田武彦 指揮/小池義郎	枯木と太陽の歌 作詩/中田浩一郎 作曲/石井 欽 指揮/山本健二 ピアノ/金井紀子
4	1983年 7月3日	ザ・シンフォニーホール	シベリウス男声合唱曲集 作曲/Jean Sibelius 指揮/藤森数彦	多田武彦名曲集 作曲/多田武彦 指揮/山下裕司	岬の墓 ふるさと 作詩/堀田善衛 作曲/團伊玖磨 作詩/室生屋星 作曲/磯部 俊 編曲/福永陽一郎 指揮/川元啓司 指揮/川元啓司 ピアノ/池谷玲子	歌劇「TANNHÄUSER」より 作曲/Richard Wagner 編曲/福永陽一郎 指揮/小池義郎 ピアノ/乾八千代 独唱/亀井清一郎	MESSE SOLENNELLEより 作曲/Albert Duhaupas 指揮/林雄一郎
5	1985年 7月7日	東京厚生年金会館	Musical「NEW MOON」 作詞/O.Hammerstein II 作曲/Sigmund Romberg 編曲/福永陽一郎 指揮/畑中良輔 ピアノ/三浦洋一	Musical「南太平洋」より 作詞/O.Hammerstein II 作曲/Richard Rodgers 編曲/指揮/福永陽一郎 ピアノ/長島優子	海の構図 作詩/小林純一 作曲/中田喜直 編曲/福永陽一郎 指揮/岡本俊久 ピアノ/清水裕子	Messe in G-Dur 作曲/Franz Schubert 編曲/Willy Trapp 指揮/小池義郎 ピアノ/加藤崇子 オルガン/高橋明子	OB四連愛曲集より Ständchen・詩篇98・ふるさと・U boj 指揮/各合唱団指揮者
6	1987年 7月12日	ザ・シンフォニーホール	Zigeunerlieder(ジプシーの歌) 作詞/H.Conrat 作曲/J.Brahms 編曲/O.Wurf 指揮/畑中良輔 ピアノ/井上直幸 独唱/細谷美内	Seven Beatles Numbers 編曲/宮島将郎 指揮/山下裕司 ピアノ/長島優子	月下の一群 訳詞/堀口大學 作曲/南 弘明 指揮/山本正洋 ピアノ/阿部 滋	交響曲第9番・第4楽章 作曲/Lvan Beethoven 編曲/指揮/小池義郎 伴奏・編曲・エレクトーン/島居達子 独唱/中島慈子・水野愛子 喜多村彰・亀井清一郎	Shenandoh・タやけの歌 Listen To The Lambs He's Got The Whole World In His Hand 指揮/福永陽一郎 ピアノ/長島優子
7	1989年 7月23日	東京文化会館大ホール	シューベルト男声合唱曲集 作詩/J.G.Seidle 他 作曲/Franz Schubert 指揮/畑中良輔 独唱/堀内康雄 ピアノ/青柳 康 ホルン/ワグネルオーケストラOB有志	月夜孟宗の図 作詩/北原白秋 作曲/多田武彦 指揮/森本 潔 朗読/二谷英明 フルート/田中浩良	Westside Story 作曲/L.Bernstein 構成・編曲/前田憲男 指揮/堀 俊輔 伴奏/早大ハイソサィエティー・オーケストラ	The Student Prince 作曲/Sigmund Romberg 構成・編曲/指揮/亀井清一郎 エレクトーン/島居達子 独唱/保坂博光・中島慈子・山本 信	日本民謡集 斉太郎節・八戸小唄・ 音戸の舟歌・最上川舟歌 指揮/各合唱団指揮者
8	1991年 7月14日	フェスティバルホール	草野心平の詩から 作詩/草野心平 作曲/多田武彦 指揮/畑中良輔	ラ・マンチャの男 作詩/Joe Darion 作曲/Mitch Leigh 編曲/福永陽一郎 指揮/楠 敏也 ピアノ/久瀬之宣	革命詩人による十の詩曲より「六つの男声合唱曲」 作詩/安田二郎 作曲/D.ショスタコヴィッチ 編曲/福永陽一郎 指揮/山本正洋	Messe Solennelle 作曲/Albert Duhaupas 指揮/亀井清一郎	月光とピエロ 作詩/堀口大學 作曲/清水 脩 指揮/北村協一
9	1993年 7月18日	東京厚生年金会館	水のいのち 作詩/高野喜久雄 作曲/高田三郎 指揮/畑中良輔 ピアノ/谷池重軸子	雪と花火・東京景物詩から 作詩/北原白秋 作曲/多田武彦 指揮/市島章三	合唱のためのコンポジションⅢ 作曲/間宮芳生 指揮/堀 俊輔	沙羅 作詩/清水重道 作曲/信時 潔 編曲/木下 保 指揮/小池義郎 ピアノ/高崎三千	君といつまでも・僕は特急の機関士で 昂・熱き心に 指揮/各合唱団指揮者 ピアノ/鬼頭久美子
10	1995年 7月16日	ザ・シンフォニーホール	月下の一群 翻訳/堀口大學 作曲/南 弘明 指揮/北村協一 ピアノ/谷池重軸子	In Concert: 回転木馬 作詩/O Hammerstein II 作曲/Richard Rodgers 指揮/楠 敏也 ピアノ/長島優子 片井悦子	枯木と太陽の歌 作詩/中田浩一郎 作曲/石井 欽 指揮/松尾葉子 ピアノ/鈴木織衛	PORGY and BESS 作詩/L.Gershwin 他 作曲/George Gershwin 編曲/福永陽一郎 指揮/広瀬康夫 独唱/廣瀬万佐子・安川佳秀 ピアノ/高崎三千	エビロークに見る、多田武彦の世界 花火・雪夜・さくら散る・エリモ岬 作曲・指揮/多田武彦
11	1997年 7月6日	東京厚生年金会館	蛙の歌 作詩/草野心平 作曲/堀 悦子 指揮/北村協一 ピアノ/谷池重軸子	ミサ曲へ長調 作品190 作曲/J.G.ラインベルガー 指揮/市島章三 オルガン/高橋聖子	北斗の海 作詩/草野心平 作曲/多田武彦 指揮/多田武彦	アイヌのウポポ 採譜/近藤鏡二郎 作曲/清水 脩 指揮/広瀬康夫	オペラ男声合唱曲 巡礼の合唱・水夫の合唱 作曲/Richard Wagner 指揮/岡本俊久 ピアノ/高橋裕子
12	1999年 7月25日	ザ・シンフォニーホール	Liebeslieder(愛の歌) 作曲/J.Brahms 編曲/福永陽一郎 指揮/畑中良輔 ピアノ/谷池重軸子・久瀬之宣	鳥よ 作詩/伊藤海彦 作曲/大中 恩 指揮/楠 敏也 ピアノ/長島優子	合唱による風土記～阿波 作曲/三木 稔 指揮/堀 俊輔	Afro-American Songs 指揮/広瀬康夫 独唱/宇佐美健 ピアノ/長田育忠	月光とピエロ 作詩/堀口大學 作曲/清水 脩 指揮/北村協一
13	2001年 7月29日	東京文化会館大ホール	歌劇「タンホイザー」より 作曲/Richard Wagner 編曲/福永陽一郎 指揮/伊東茂雄 独唱/久保光哉(バリトン) ピアノ/前田勝則	「Richard Strauss歌曲集より」 作曲/Richard Strauss 編曲/福永陽一郎 指揮/小林香太 ピアノ/久瀬之宣	前田憲男VSワセグリOB 編曲・指揮・ピアノ・作詩/前田憲男 副指揮/田中 宏	男声合唱組曲「富士山」 作詩/草野心平 作曲/多田武彦 指揮/広瀬康夫	男声合唱組曲「水のいのち」 作詩/高野喜久雄 作曲/高田三郎 指揮/北村協一 ピアノ/久瀬之宣
14	2003年 7月21日	フェスティバルホール	Zigeunerlieder(ジプシーの歌) 作詩/H.コラント 作曲/J.ブラームス 編曲/O.ザルフ 指揮/畑中良輔 ピアノ/久瀬之宣 ソプラノ/大島洋子 テノール/田中良夫・亀井洋一	男声合唱曲「岬の墓」 作詩/堀田善衛 作曲/團伊玖磨 編曲/福永陽一郎 指揮/山下裕司 ピアノ/久瀬之宣	男声合唱組曲「戦旅」 作詩/伊藤桂一 作曲/高田三郎 指揮/須賀敏一 ピアノ/落合茂	ELVIS PRESLEY, Still Alive in Male Voices 編曲/小池義郎 指揮/広瀬康夫	男声合唱組曲「富士山」 作詩/草野心平 作曲/多田武彦 指揮/浅井敬壹
15	2005年 7月24日	東京芸術劇場大ホール	男声合唱組曲「沙羅」 作詩/清水重道 作曲/信時潔 編曲/木下保 指揮/畑中良輔 ピアノ/谷池重軸子	男声合唱曲 組曲「御誦」 作曲/大島ミチル 指揮/小林香太 ピアノ/久瀬之宣 アルト/小川明子 パーカッション/萱谷亮一・萱谷有里	男声合唱組曲「水のいのち」 作詩/高野喜久雄 作曲/高田三郎 指揮/山田和樹 ピアノ/岩瀬 彩	バーバー・ショッ プハーモニーの世界 作詩・作曲/ Geoffrey O'Hara 他 指揮/広瀬康夫	Sound Celebration・斎太郎節 君といつまでも・Ave Maria ふるさと 指揮/各合唱団指揮者
16	2007年 7月29日	神戸国際会館 こくさいホール	男声合唱組曲「富士山」 作詞/草野心平 作曲/多田武彦 指揮/畑中良輔 朗読/平野忠彦	REQUIEM 作曲/Gabriel Faure 編曲/吉岡弘行 指揮/山下裕司 ピアノ/木下亜子 ソプラノ/幸田浩子	アイヌのウポポ 採譜/近藤鏡二郎 作曲/清水 脩 指揮/山脇卓也	The Student Prince 編曲/北村協一 指揮/広瀬康夫 ピアノ/島田稔也	黒人霊歌 指揮/広瀬康夫
17	2009年 7月26日	すみだ トリフォニーホール	男声合唱組曲「過ぎし日」 作詞/北原白秋 作曲/多田武彦 指揮/畑中良輔	Afro-American Spirituals 指揮/小林香太	男声合唱曲「岬の墓」 作詞/堀田善衛 作曲/團伊玖磨 編曲/福永陽一郎 指揮/西田裕己 ピアノ/前田勝則	男声合唱組曲「雪明りの路」 作詞/伊藤 整 作曲/多田武彦 指揮/広瀬康夫	男声合唱曲「枯木と太陽の歌」 作詞/中田浩一郎 作曲/石井 欽 指揮/佐藤正浩 ピアノ/前田勝則

旬魚旬菜 美味心料理

# 心齋橋市場 小料理 KOIKI

【営業時間】  
ランチ 11:30~15:00  
ディナー(月~木・日) 17:00~24:00 (LO23:00)  
(金・土・祝前) 17:00~ 2:00 (LO 1:00)

年中無休で、張り切って営業中  
各種宴会ご予約ダイヤル  
**06-6244-1414**

大阪市中央区西心齋橋 1-10-9  
心齋橋駅7・8番出口 西へすぐ  
ホテル日航大阪裏  
※心齋橋駅から徒歩20秒

<http://www.petitrosa.com/>

おいしい品質 **Q・B・Bチーズ** Quality's Best & Beautiful

選べるおいしさQ・B・Bベビーチーズ

六甲バター株式会社  
<http://www.qbb.co.jp/>

ザッポロビアレストラン  
**ニュー・ミュンヘン 本店**

〒545-0022  
大阪市北区曽根崎2-9-13 (お初天神通り)

**TEL 06-6311-3381**  
<http://www.newmunchen.co.jp>

営業時間 AM 11:30 ~ PM 10:30

メガネ  
は  
夢ののぞき窓

**服部メガネ**

神戸・大丸前 TEL.078-331-1123

口福の宴を  
今宵、がんこで。

それぞれの季節の粋を愛でる  
四季折々回福の宴。

**がんこ**

〒533-2100 二五  
大阪市淀川区新北野二丁目二一十三  
明治安田生命ビル 八階

TEL (06) 6308-1228  
FAX (06) 6308-1279  
URL: <http://www.gankofood.co.jp>

白鹿 HAKUSHIKA JAPAN 1662

黒松白鹿 **山田錦**

特撰黒松白鹿特別本醸造山田錦 720ml 瓶詰 **1,021円**

※価格はメーカー希望小売価格(消費税込)です。

未成年者の飲酒は法律で禁じられています。  
お酒はおいしく適量を。

妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に影響するおそれがありますので、気をつけましょう。飲酒運転は、絶対にやめましょう。

お客様相談室  
TEL: 0799-832-2727 (9:00~17:00 平日のみ)  
灘・西宮市・辰馬本家酒造株式会社  
<http://www.hakushika.co.jp/>

酒米の銘品種 兵庫県産山田錦100%使用

私たちはパーキング・プロフェッショナル集団です。

駐車場のことなら  
何でも  
ご相談下さい  
(10年の実績)。

- 駐車場の新設・改修
- 駐車場機器の設計施工・販売
- 駐車場電気工事 大阪府知事許可(般-20)第130144号
- 駐車場経営受託・管理運営
- 駐車場建設・運営・管理コンサルティング

**P@STEL** 株式会社 パステル <http://www.pastel-inc.com>  
〒541-0059 大阪市中央区博労町4丁目7番3号 船場アレックスビル7F  
お問合せは 電話 06-6253-8814 FAX 06-6253-8815

マンション管理・ビルメンテナンス  
はお任せください!



快適な暮らしを創造する

アーカスクリエイト株式会社

〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目4番25号

Tel: **06-6311-0606** <http://www.acus-create.co.jp/>



晴れの舞台を華やかに盛り上げるステージドレス

*Symphonic*<sup>®</sup>  
シンフォニック

ユニチカトレーディング株式会社 ● カタログのお申し込み・お問い合わせは通話料無料のフリーダイヤル ● 携帯電話・PHSからのご利用 (通話料はお客様のご負担となります)  
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町4-1-5 共同ビル6F ☎ **0120-13-7783** ☎ **03-3246-7787** ☎ **03-3246-7693** ● ホームページ <http://www.symphonic-unitsu.com>

「生きる」を創る。

Aflac

新登場 /

生きるための  
がん保険 Days

もっと頼れる医療保険  
新EVER  
エヴァー

【募集代理店】  
赤松 英昭 〒565-0843 吹田市千里山松が丘23-17  
☎ 0120-543-001 FAX 06-6380-3001

【引受保険会社】  
アフラック  
(アメリカンファミリー生命保険会社) TEL 06-7173-2705 FAX 06-6634-0645

大阪総合支社  
〒556-0011 大阪市浪速区難波中2-10-70 パークタワー23階

西村屋本館  
兵庫県城崎温泉  
〇七九六・三三二・三三二

趣き深い但馬の山あい、  
一五〇年間の歩みを重ねた純和風の宿

豊かな自然に囲まれ5万坪の庭園をのぞむ、  
ゆったりと清々しい癒しの空間

ホテル 招月庭  
兵庫県城崎温泉 0796-32-3535

REM M KAGOSHIMA

眠りは、はじまり。  
よい眠りは、  
静かな力であなたを満たします。  
もっと、よい眠りを。  
そんな思いでつくられた  
全く新しいホテルが、  
鹿児島に誕生します。

2011年10月15日(予定)  
新ホテル「REM鹿児島」オープン

鹿児島中央駅から市電天文館通電停下車徒歩1分  
鹿児島空港からバスで約45分

レム日比谷  
東京宝塚劇場前  
JR「有楽町駅」  
日比谷口より徒歩約4分

レム秋葉原  
JR「秋葉原駅」  
中央改札口直結

続く2012年秋  
レム新大阪が誕生します。

ご予約受付中  
詳細は：[www.remm.jp](http://www.remm.jp)

阪急阪神第一ホテルグループ

# Good Relationships KANPOHグループ

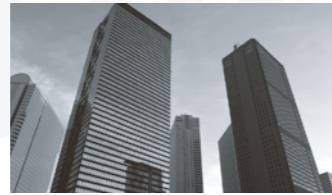
## 未来に翔く、関包スチールグループ

高度な産業用から身近な家庭用品まで  
様々なフィールドで鉄の可能性を、追求しています。



輸送関連

自動車のドアモール・外装材、自転車のギヤ、ブレーキ部品、パレット、その他として。



建築関連

高層ビルから一般住宅、ガレージまでの天井下地材、床材、構造材、パイプドア鋼材、その他として。



OA機器関連

コンピュータ端末機内蔵部品装材、複写機装材、スチール家具、その他として。



農業関連

温床ハウスの鉄板加工材、農業機械部品鋼材、園芸用品鋼材、その他として。



生活関連

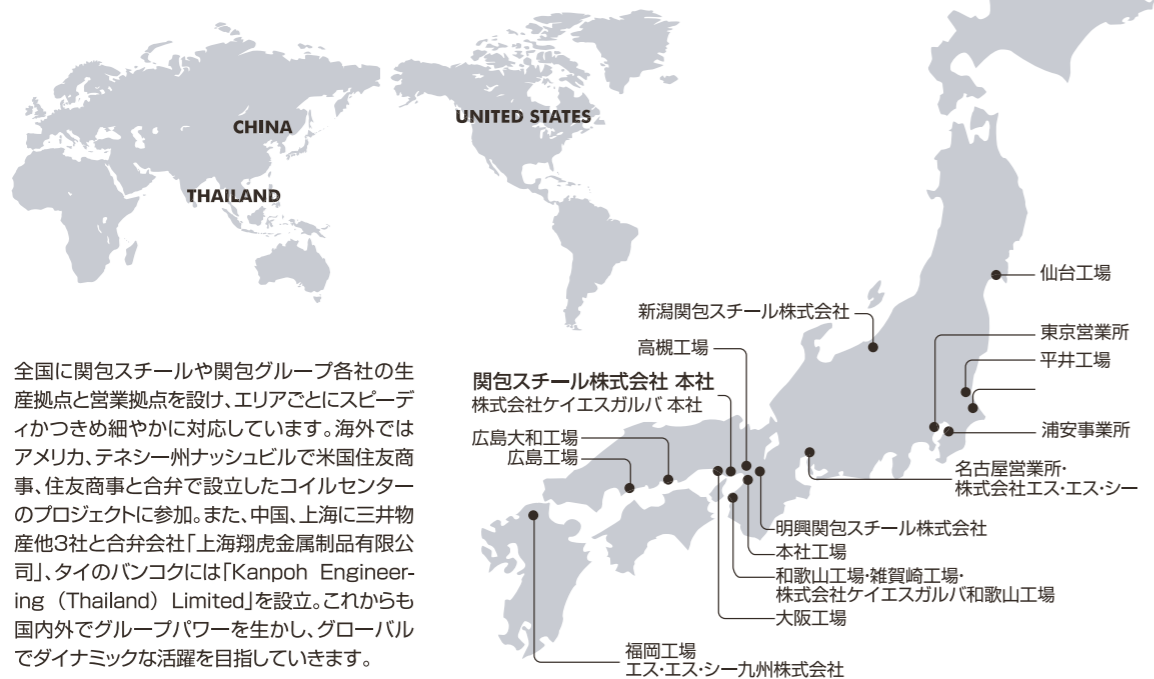
温水器、流し台、食器棚、石油ストーブ、その他として。



電機関連

冷蔵庫、レンジ、オーブン、洗濯機、照明器具、その他として。

国内、そしてワールドワイドな展開。  
KANPOHグループのネットワークが広がります。



全国に関包スチールや関包グループ各社の生産拠点と営業拠点を設け、エリアごとにスピーディかつきめ細やかに対応しています。海外ではアメリカ、テネシー州ナッシュビルで米国住友商事、住友商事と合併で設立したコイルセンターのプロジェクトに参加。また、中国、上海に三井物産他3社と合併会社「上海翔虎金属制品有限公司」、タイのバンコクには「Kanpoh Engineering (Thailand) Limited」を設立。これからも国内外でグループパワーを生かし、グローバルでダイナミックな活躍を目指していきます。

関包スチール株式会社 代表取締役社長 谷本 隆広 (早稲田大学 昭和44年卒業)  
【本社】〒550-0004 大阪市西区靱本町1-6-21 Tel:06-6449-8811(代)



電車から京旅気分を盛り上げる和モダンの空間。

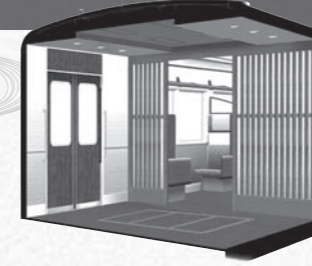
# 京とれいん

京の旅は電車から始まる!

土・日曜  
祝日のみ  
運行!

京町家を模した落ち着いた半個室席

3・4号車



車内エントランス

客室へ向かうお客様をお迎えるのは、格子状のエントランス。京町家の玄関をイメージした意匠が、京旅気分を盛り上げます。さらに、天井に埋め込んだダウンライトは、壁面のポスターをより印象的にライトアップ。

伝統的な和柄の華やかな座席シート

1・2号車 / 5・6号車



1・2号車

座席シートのイメージ 蘭の華散らし

目にも鮮やかな、赤を基調にした「蘭の華散らし」イメージのシート。車内吊りのないスマートな空間がその華やかさを引き立て、旅の高揚感と非日常感を高めます。



5・6号車

座席シートのイメージ 麻の葉

心もむグリーンをメインカラーに配した「麻の葉」イメージの座席。全車両共通の温かみある電球色のライティングが、柔らかく安らぐ空間を演出します。



木目の天井



テーブル

半個室席

友人や家族との会話がはずむ半個室。畳地の背もたれや伝統的な和柄をイメージしたシートカバー、個室感を高める座席上部のパーテーションが、落ち着きを感じさせる空間です。窓側には便利なテーブル付き。

随所に散りばめられた「こだわり」

●パンフレットラック



海外からのお客様にも京都の旅を楽しんでいただけるよう、日本語&英語、韓国語、中国語のガイドマップをご用意しています。

●土間床



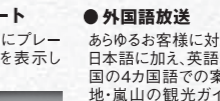
落ち着いたあるダークブラウンの床は、京町家の土間をイメージしたもので、空間細部にまでこだわりました。

●扉・壁紙



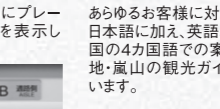
車両のドアには竹模様を、壁には波をイメージした壁紙を施しています。

●座席プレート



すべての座席にプレートで座席番号を表示しています。

●外国語放送



あらゆるお客様に対応するため、日本語に加え、英語、韓国語、中国語の4カ国語での案内や、景勝地・嵐山の観光ガイド放送を行います。

●掛け軸風ポスター



壁面に飾っているのは、京都を基点に活躍する和紙作家・堀木エリ子氏が座席シートからイメージして制作した作品。6タイプの作品を掲出しています。

堀木エリ子氏  
京都生まれ、株式会社堀木エリ子&アソシエイツ代表取締役。和紙インテリートの企画・制作から施工までを手がける。

【車両編成図】



「京とれいん」運行インフォメーション

■ 快速特急 河原町ゆき

① 梅田発 09:52 ▶ 河原町着 10:35  
② 梅田発 11:52 ▶ 河原町着 12:35  
③ 梅田発 13:52 ▶ 河原町着 14:35  
④ 梅田発 15:52 ▶ 河原町着 16:35

■ 快速特急 梅田ゆき

① 河原町発 11:01 ▶ 梅田着 11:45  
② 河原町発 13:01 ▶ 梅田着 13:45  
③ 河原町発 15:01 ▶ 梅田着 15:45  
④ 河原町発 16:42 ▶ 梅田着 17:27



普通運賃で乗車できる!

ご予約不要

阪急電鉄交通ご案内センター

0570-089-500 (固定電話からは市内通話料金でご利用可能)  
06-6133-3473 (PHS・IP電話等)

【平日9:00~22:00および  
土・日、祝日9:00~19:00】